

第4回 特別研修会に参加して

日時：平成31年2月17日(日)
場所：ステーションコンファレンス東京
講師：丸尾 勝一郎先生、山中 隆平先生



中原 達郎 (千葉県)

平成31年2月17日にステーションコンファレンス東京にて第4回特別研修会が開催され、午前丸尾 勝一郎先生(東京都開業)、午後には山中 隆平先生(東京都開業)に講師としてご登壇いただき、盛り沢山の内容となりました。



丸尾先生のご講演では、前半は自己紹介として大学卒業から留学、開業に至ったお話から、論文の読み方をたっぷり説明してくださいました。特に論文の読み方には先生のこだわりが感じられ、「まず問題点をリストアップしてから治療方針を紐解いていくその中でエビデンスを利用する」とし、論文の中でも特に気を付けているのが合併症の記載だそうで、たとえ成功すると結論づけられていても副作用が多ければ注意が必要とのことでした。また論文を読むときの心得として、ケースレポートなのかシステマティックレビューなのかといったエビデンスレベルを確認することや、アブストラクト(要約)は信頼せずに常に批判的な目線で読むようにし、最終的には原著を読んで結果を自分で吟味することが大事と示唆していただきました。

後半はデジタルの話に移りますが、歯科も早晚デジタルがないと治療ができませんという時代になるそうです。コーンビームCTのデータの基本からサージカルガイドの考え方、トリオスやセレックなどの各種光学印象の最新の知見に至るまでを大変わかりやすく説明していただき、今後の臨床や機器の選択に大変参考となりました。

山中先生のご講演は「インプラント治療において不可欠な硬組織、軟組織のマネジメント」について理解を深めさせていただく内容でした。インプラント治療成功の鍵として・骨量・インプラントポジション・バイオタイプ・ティッシュサポート・審美の5つを挙げられ、多様な臨床ケースを提示していただき大変わかりやすく解説してくださいました。特にインプラントの埋入ポジションには注意が必要で、サージカルステントは水平的な位置のためだけでなく、垂直的な埋入深さを確認するためにも用いることなども教えていただきました。また、顎位の変化についても気をつけているとのこと、遊離端症例の場合にはプロビジョナルでしばらく使ってもらって確認をしているそうです。GBRにおけるメンブレンの使い分け、骨補填材への考え方なども含め、たくさんの臨床写真と動画を用いての実践的なレクチャーで、スライドから目を離すことができないようなご講演でした。

お二方とも大変中身の濃いご講演で、時間が経つのを忘れてしまうような充実した一日を過ごすことができました。研修会では毎回、会員のスキルアップにつながるよう歯科のトップを走る素晴らしい演者をお招きしています。より一層の会員の皆様のご参加をお願いいたします。